

SCHOOL  
PROGRAM  
REPORT  
2018

SCHOOL  
PROGRAM  
REPORT  
2018

平成30年度 高知県立美術館  
スクール・プログラム報告書

## 平成30年度 高知県立美術館スクール・プログラムについて

高知県立美術館では、平成27年度に、学校と美術館が連携して行う様々な活動を《スクール・プログラム》という名称に統括し、計画的かつ総合的な事業に発展させることを目指して取り組んでいます。

このスクール・プログラムの柱の一つである「学校から来てもらう事業」の美術体験・美術館体験プログラムでは、各学校や施設の担当者と事前に打合せを行い、児童生徒の実態や発達段階、学習の目的などに応じた鑑賞プログラムを実施しています。子どもたちが、実作品と出会うことで湧きおこる感情や思考を大切にしたい対話形式の鑑賞活動となるよう、コミュニケーションが取りやすい小グループでの実施を心掛けています。

平成26年度から取り組んでいます保育園・幼稚園から来館事業は、土佐市の保育所11園と高知大学教育学部附属幼稚園の就学前の子ども達に来館していただいています。現在の来館プログラムは土佐市教育委員会幼保支援課からの依頼を受けて内容を検討したプログラムを行っています。また小グループでの活動ができるように美術館職員と共にカルチャーサポーターがグループのリーダーとなり、館内の案内と語りかけを行っています。これからもプログラム内容とサポート体制の充実を図っていきたく考えています。

また、美術館が往復の貸し切りバスをチャーターすることで、学校と美術館の物理的な距離を埋める「ミュージアムバス・ツアー」事業も5年目を迎え、これまで来館の無かった学校の利用がありました。これからもまだ利用のない地域を中心に、利用の呼びかけと周知を行って参ります。

スクール・プログラムのもう一つの柱は、「学校へ出向く事業」です。開館以来、美術館では、美術、演劇、音楽、映画など、幅広いジャンルのアートを紹介、発信してきました。その特徴を活かして、美術館が地域の学校などで行うアウトリーチ活動として、多様なプログラムを展開しています。アーティストが演奏やパフォーマンスを行う出前教室は、プロのアーティストとの交流や表現活動を間近で体験できる場として好評です。一方、現在、利用が減少傾向にある出前びじゅつ講座は、鑑賞ツールの工夫やアーティストとの協働など、生の表現活動を体験できるプログラムへの転換を探り、新たな利用につなげていきたく思います。

スクール・プログラムは、事業の周知、受入体制やプログラム内容など、まだまだ課題はあります。地域や学校の実情、授業方針などのリサーチや事業実施後のフィードバックをさらに重ねることで、利用しやすい、利用したくなる事業を目指して参ります。

### 地図でみる利用状況



高知県内の公立小・中学校数(平成30年度)

	小学校	中学校	義務教育学校	合計
市町村(学校組合)立	190	100	2	292
県立		4		4
国立	1	1		2
	191	105	2	298

小・中学校の美術館利用実績(平成26～30年)

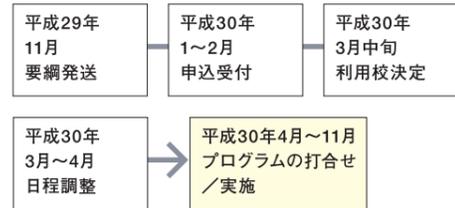
	平成26年	27年	28年	29年	30年
来館利用	27件 1,155人	53件 2,141人	47件 2,520人	30件 1,371人	29件 1,035人
来館利用(私学)	15件 311人	26件 1,088人	8件 296人	8件 207人	1件 44人
来館利用(高知市立)	5件 399人	9件 638人	12件 1,084人	7件 714人	5件 323人
出前びじゅつ講座	4件 93人	11件 565人	8件 460人	4件 330人	7件 553人
出前びじゅつ講座(高知市立)	0件 0人	1件 160人	4件 287人	2件 279人	3件 450人

来館(学校→美術館)事業

1 ミュージアムバス・ツアー

県内の全公立小・中学校を対象に利用校の募集を行い、2月末の締切日までに8校の小・中学校より申込があった。今回も過去5年間の利用がなかった地域や学校を優先に選考し、その結果、義務教育学校1校、小学校1校、中学校2校の来館を決定した。本年度も、生徒数の多い学校と発達年齢層の広い学校の受入れがあり、対応スタッフの確保とともに、プログラムの時間配分や工夫が課題となった。

平成30年度ミュージアムバス・ツアーのスケジュール



9月21日[金]  
高知市立義務教育学校行川学園 引率教員23名  
小学生24人：1年生5人、2年生5人、3年生3人、  
4年生5人、5年生1人、6年生5人  
中学生27人：7年生8人、8年生9人、9年生10人

●目的  
子どもたちに美術作品との出会いを通じて、豊かな心情を育む機会とする。また、高知県立美術館の施設見学を行う機会とする。

●スケジュール  
9:30 来館、美術館ホール客席へご案内・トイレ休憩。  
オリエンテーション。(美術館の役割、館内ルールの確認)  
11:10 9学年を5班に分け、学芸員が引率して館内作品鑑賞と展示室(シャガール展示室、石元泰博展示室、企画展「王様の美術館」第1と第2会場)では対話型鑑賞と解説を行う。またバックヤードツアーとホール担当者による能楽堂解説を行う。(楽屋・ホール音響管理室・運搬用エレベーターを使用して搬入口、防災センターを見学)  
※小学校1・2年生は休憩しながら少なめのプログラムを実施。  
11:20 美術館ホール客席に集合、あいさつ。  
11:30 美術館出発。その後、高知県立牧野植物園へ。

●先生の感想  
1～9年生の子どもたちは興味深くそれぞれが楽しんで見学するこ

とができていました。  
・有名画家の有名な作品をこれほど一堂に鑑賞する機会は珍しく、この機会を与えていただき職員一同感謝をしています。子どもたちはこれまで美術館に足を運ぶ機会もなく当日は興味津々の様子でした。また普段入ることができないバックヤードも見せていただき良かったと思います。

●児童・生徒の感想  
・私が今日美術館を訪れて思ったことは、作家の方によって絵の雰囲気や世界観が違って、とてもすてきなと思いました。私はサルバトル・ダリという人の「幻想的風景」という作品がすごく面白くて好きになりました。それとシャガールの作品だけがある部屋は壁の色もピンクで作品の色もきれいで、色だけでも楽しむことができました。もちろん気に入った絵もいくつかあります。また、作品が入れ替わると聞いたので、家族や友達と見に行きたいです。(9年女子)  
・普段見ることができないバックヤードや絵について詳しく分かりやすく説明して下さいだったので、美術に興味をもてました。時間をかけてゆっくり見ることで、発見もあり楽しかったです。シャガールの油絵は特に気に入りました。色使いがとてもきれいででした。次の展覧会にもぜひ行ってみたいです。(9年男子)  
・今日、高知県立美術館を見学して思った第一印象は、「美術って不思議だなあ」です。「王様の美術館」ということで、フランスの有名な絵画を見せていただきました。その中には、コラージュと呼ばれる技術や人物の中に風景を描いたりしているところが不思議と心を持っていかれました。自分にとっては「美術」「芸術」は素敵なものなのだと気づくこともできました。(9年男子)

●成果・課題  
・学年数も多く、発達年齢の幅が広がったため、担当教員と打合わせを行ってから必要な学芸員数を確認し、事業提案・タイムスケジュールなど細かく検討をした。当日は学芸員全員で対応ができたので、1グループ10人ほどの少人数体制で、バックヤードツアーを含め多くの場所を見学できた。館内作品や4つの展示室をゆったりと鑑賞することができたと思う反面、見る量が多く時間がかかるため、低学年の小学生は体力的にきつくなると感じた。休憩室や、鑑賞ツールを使うなど担当学芸員に工夫してもらった。



ホールの照明を操作する部屋から 休憩室の使い方



高知県ゆかりの作家、石元泰博展示室へ 何が見えたかな

9月27日[木]  
須崎市立浦ノ内中学校  
1年生9人、2年生8人、3年生7人、引率教員12名

●目的  
①須崎市近隣にない文化施設である美術館に親しみを持つ。  
②公共施設に行くことで集団行動の大切さやマナーを身につける。  
内容：美術館内外をスタッフとめぐるバックヤードツアーを行い、美術的視野を広げる。

●スケジュール  
9:50 来館、美術館ホール客席にご案内。オリエンテーション。  
(美術館の役割、館内ルールの確認)  
11:10 3学年を2班に分け、学芸員が引率して館内作品鑑賞と展示室(シャガール展示室、石元泰博展示室)では対話型鑑賞と解説を行う。またバックヤードツアーとホール担当者による能楽堂解説を行う。(楽屋・ホール音響管理室・運搬用エレベーターを使用して搬入口、防災センターを見学)  
11:20 美術館ホール客席に集合、あいさつ。  
11:30 美術館出発。その後、高知みらい科学館へ。

●先生の感想  
・事前の打合わせを丁寧にさせていただいて助かりました。  
・限られた時間の中で沢山見せていただき、生徒だけでなく職員含めて参加者全員が大変感動しながら楽しませていただきました。生徒たちの驚く顔を見られて行けて良かったなと思いました。  
・普段、美術館を利用する際には見ることができないバックヤード等の見学や、その説明があり美術館の裏側を知ることができたように思い、勉強になりました。中学生にもツアーで説明していただくことで、若い世代の感性を磨くことにもなると感じました。この事業を継続してほしいと思います。心が豊かになる事業だと思いました。  
・美術館の様子、意義を直接見聞きし知るとは、生徒たちに美術や県行政についての興味関心につながる良い経験であったと思う。

●児童・生徒の感想  
・初めて美術館に行ったけどものすごく面白かったです。知らない

画家が知れたのでまた行きたいと思いました。  
・美術館は面白そうなどころではないと思っていたが、行ってみると面白かったです。作品は一つずつ違う感情を表しているように思いました。その中でも、マルク・シャガールの「村の祭り」は人の悲しみがよくわかりました。  
・幻想的な作品や見ただけでその場の風景が浮かんできたりする作品がたくさんあってびっくりしました。バックヤードも見せてもらったことで、大きなエレベーターで作品を運んだりすることも知ることができました。また能舞台など、舞台の裏側についても教えてもらってよかったです。また行ってみたいです。

●成果・課題  
・来館時期が次回展覧会の準備期間と重なり、鑑賞できる展示室と作品が少なかったことが残念であった。美術館としては幅広い鑑賞体験をしてもらいたいと考えているので、今後もバスツアーの活用方法について検討していく必要がある。  
・夏休み中に担当教員と教頭先生に下見に来てもらい、当日と同じ場所を巡ってイメージしてもらったことができた。  
・展示室と館内作品は、学芸員が対話型鑑賞を行った。問いかけにも反応があり、自分なりの考え方や見方を通して、作品をよく見ようとしていたと感じた。



能舞台の仕組みについて解説を聞いて メモをしながら鑑賞

10月23日[火]  
高知市立旭小学校  
4年生 2クラス54人、引率教員2名

●目的  
学校外活動として以下の学習のめあてをもって来館。  
・シャガールの絵を見てすごいな、面白いな、変わっているな、不思議だなと思ったことを見つけよう。  
・家の人に美術館のひみつを伝えよう。

●スケジュール  
9:10 来館。美術館ホールホワイエへご案内。ステージの照明仕込み作業・リハーサルの見学。(同日夕方の演劇公演のリハーサル)オリエンテーション。(美術館の役割、館内ルールの確認)  
11:10 2クラスを4班に分け、学芸員が引率して館内作品鑑賞と展

示室(シャガール展示室、石元泰博展示室、第4展示室「土陽美術会」)では、対話型鑑賞と解説を行う。またバックヤードツアーを行う。(運搬用エレベーターを使用して搬入口を見学)

11:20 美術館ホール客席に集合、あいさつ。

11:30 美術館出発。その後、高知県立牧野植物園へ。

### ●先生の感想

・事前の打合わせは、当日の流れに沿って建物や展示物を見学し、確認することができたので分かりやすかった。子どもたちの動きがイメージしやすかった。当日は事前の打合わせがしっかりできていたので不安はなかった。美術館に行ったこともない子どもが多かったので、建物の不思議や絵画の鑑賞ポイントを教えてもらい興味を持って学習することができた。

・写真や絵の鑑賞は興味のない子どももいるだろうと心配していましたが、担当の方が石元泰博さん、シャガールの生い立ちなども交えて説明してくれたので、飽きずに鑑賞できていたと感じた。

・美術館でのマナーや働く人の仕事内容、イベントなど美術館のことをたくさん知ることができて面白かったという感想が多かった。家族ともう一度行ってみたいと思った子もいました。

### ●児童・生徒の感想

(以下子どもたちの新聞の感想より抜粋)

・美術館は作品が長持ちするように部屋の明かりが薄暗くなっていたり、温度調節など美術館には秘密が沢山あったのです。

・美術館はただただ絵がテキトーにあっただけかと思っていましたが、見学して、一つ一つの絵に思いをこめて工夫がこらされているんだなということが分かりました。

・美術館に何回か行ったことがあったけど美術館のことがもっと分かりました。

・わたしは特に、石元さんの写真が気に入りました。また行きたいです。次行くときは家族と一緒に来て見せたいです。

### ●成果・課題

めあての「美術館のことを知ろう」に沿って、鉛筆とお手製の小さなメモを持参しての活動となった。説明している時や自分が見つけた気になったことを熱心にメモを取る姿は、それぞれが美術館について理解し、発見をしていると理解できた。

後日、来館についてまとめた新聞を見せていただいたが、どの子も自分の言葉で表現して見やすくとめられていた。来館の事後学習を通してさらに美術館に親しみを感じてくれていると感じた。「家の人に伝えよう」という学習のめあてが「一緒にまた来たい」という声に変わっていくのは嬉しく、子どもたちの来館へのきっかけに繋がることに期待したい。



ステージの照明の仕込みを見学

美術館についての新聞

10月30日[火]  
いの町立伊野中学校  
1年生3クラス88人、引率教員9名

### ●目的

- ・美術館でのマナーや礼儀を知り、行動することができる。
- ・実際に自分の目で見ることで美術文化に関心を持ち、よさや美しさなどを味わう。
- ・生涯学習に繋げるためにも、美術館を身近なものに感じる。

### ●スケジュール

9:50 来館、美術館ホール客席へご案内。オリエンテーション。(美術館の役割、館内ルールの確認、企画展「芳年」について事前解説)能楽堂、ホールの解説。(ステージに全員上がって見学)

11:10 3クラスを6班に分け、学芸員が引率して館内作品鑑賞と展示室(シャガール展示室、石元泰博展示室、企画展「芳年」第1と第2会場、第4展示室「土陽美術会」)では対話型鑑賞と解説を行う。バックヤードツアーを行う。(運搬用エレベーターを使用して搬入口を見学)

11:20 美術館ホール客席に集合、あいさつ。

11:30 美術館出発。その後、高知県立牧野植物園へ。

### ●先生の感想

・美術館に行くのが初めてという生徒も多かったのですが、楽しみながら真剣に鑑賞している様子がうかがえました。生徒からも「本物ってすごいね」や「また来たい」という声もあり、良い経験になったと考えます。

### ●児童・生徒の感想

- ・マナーを守って鑑賞できた。
- ・やっぱり本物はすごいと思った。また来たいと思った。
- ・学芸員の先生がいろいろと教えてくれた良かった。

### ●成果・課題

・生徒数も多く、学芸員の確保と割り当てに苦慮した。前日に展示室への誘導方法などが変更となり学校側にご迷惑をかけたが、当日は問題なく進行できた。展示室への案内誘導ができるカルチャ

ーサポーター(ボランティアスタッフ)の力を借りたいと感じた。

・企画展「芳年」の会場内の混雑を避けて、ホール客席で事前紹介を行った。しっかりと説明を聞いてもらい、展示室での鑑賞の時間を多く取れるようにした。

・全ての展示室を巡ることができ、企画展以外の収蔵作品も多く紹介ができた。



ステージの上で間近に

解説を聞きながら鑑賞

## 2 学校団体利用

図画工作や美術の授業、社会科見学、校外学習など、各学校と連携して、来館目的や児童・生徒に合った鑑賞プログラムを実施した。

また、解説を希望する学校は10分程度の前説を行っている。中にはワークシートなど課題を持って鑑賞に入るなど、学校ごとに取り組み、工夫を凝らしていた。例えば①展示室毎に自分が気に入った作品についての感想を書く、②課題に沿って学年ごとの小グループになって会話・相談しながら作品を探る、③自分の気に入ったところや感じたことを学芸員と対話しながらメモを取るなど、それぞれの着目点をもって鑑賞活動に臨んでいた。

○利用校/高知市立一宮中学校、高知市立青柳中学校、いの町立伊野南中学校、土佐塾高等学校、高知高等学院、高知県立高知若草養護学校中学部、高知県立高知若草養護学校国立高知病院分校高等部、土佐市立高石小学校、安田町立安田小学校、高知市教育研究所教育支援センター、学校法人高知学園高知小学校、仁淀川町立池川小学校、四万十町立米奥小学校、馬路村立馬路小学校、四万十町立立川口小学校(計:15校)

### ●成果・課題

・前年度と比較し、鑑賞プログラム利用学校数が減少したが、新規利用の学校もあった。各学校の行事や来館しやすい時期の検証、展覧会のご案内など広報を工夫する必要がある。また、100人近い受入れの際、対応スタッフや集合場所の確保についても検討が必要である。

・出前講座などで事前に鑑賞マナーについて学んでいる学校は、大人数でも落ち着いて行動ができていた。また成果として、毎年来館している子どもたちの中に経験として蓄積されているものがあると感じた。そして本物を間近で鑑賞できることで、写真や浮世絵の様子、日本画や油彩画の絵肌などモニター画像では分からない立体的な奥行き等を体験してもらえたと感じている。事後学習の結果を報告してくれた学校もあり、大変参考になった。

・こども県展の時期に来館する学校の中には、他の展示室を鑑賞せず帰校するところが少なくない。問い合わせの連絡の際に、団体利用(引率教員も無料で観覧可)のご案内を積極的に行った。結果、ほとんどの学校に企画展を鑑賞していただいた。コレクションの展示を観たことがない先生方も多く、当館の収蔵作品を知ってもらうことができた。施設の理解、ティーチャーズ・デイのご案内等を含めて、何らかの形でつながりを保ちたいと考えている。



能舞台を座席から体感(高石小学校)

色々な角度から見てみよう(安田小学校)  
この後はこども県展も鑑賞

## 3 その他

### 保育園・幼稚園の団体利用

今年度も引き続き、土佐市内の保育園と高知大学教育学部附属幼稚園の就学直前の園児を対象に鑑賞プログラムを行った。土佐市の保育園は、館内散歩と好きな場所や作品を描く1時間程度のプログラムが定着してきている。附属幼稚園は、園内で事前に画像で見たシャガールの作品《空飛ぶロバ》を中心に館内作品を鑑賞した。子ども達のつぶやきや発言を、カルチャーサポーターが積極的に受けとめ、子どもたちの鑑賞のバックアップをしてくれた。

利用施設/北原保育園、天理あかつき保育園、愛聖保育園、こぼと保育園、山の手保育園、宇佐保育園、みのり保育園、すみれ保育園、高石保育園、わかば保育園、蓮池保育園、高知大学附属幼稚園(計12施設)



こんにちは!(附属幼稚園)



どうなっているのかな?  
(北原・天理あかつき保育園)



エレベーターに乗って(愛聖保育園)

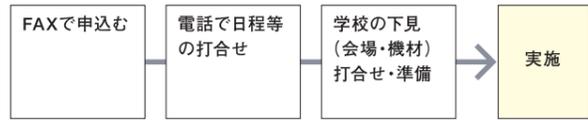


耳も澄まして、作品に釘付け(わかば保育園)

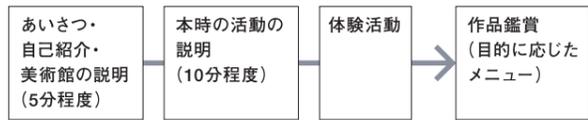
アウトリーチ (美術館→学校) 事業

1 出前びじゅつ講座

美術館スタッフが、先生方からの要望をもとに、画像などを用いて美術鑑賞を中心に授業を行う。



●スケジュール



●来館前の事前学習

一宮中学校1年生の事例

目標 「鑑賞との出会い」事前学習		
進行	内容	活動の様子
導入 (約10分)	○自己紹介○美術館の施設、概要の説明(外観、立地、建物)	
展開 (約30分)	○来館前日の出前授業○企画展「石川直樹 この星の光の地図を写す」について解説	
まとめ (約5分)	作者のことを知り、翌日の来館につなげよう。美術館など公共施設では、どんなことに気を付けるか?など	

●図画工作・美術の授業や、キャリア教育の一環等、要望に応じたプログラム

◎利用校:高知県立高知若草養護学校土佐希望の家分校、土佐中学校・高等学校、安田町立安田小学校4年生、高知市立城西中学校2年生、高知市立神田小学校放課後児童クラブ(第1、第3)(計:5団体)

高知県立高知若草養護学校土佐希望の家分校の事例

目標 「平成30年度の親子行事」としての芸術体験や鑑賞活動(小~高等部21人とその家族)		
進行	内容	活動の様子
導入 (約10分)	○あいさつ、日程確認 ○講師紹介(高知県在住、砂の彫刻家:松木由子氏)事前学習の映像を見る	
展開 (約20分)	○制作、撮影(iPad) 休憩中airdropで集約	
まとめ (約15分)	○みんなの作品を鑑賞しよう(スライドショー) ○講師コメント、あいさつ	

●保護者の感想

・初めての親子行事でしたが、とても楽しく貴重な時間でした。普段なかなか砂に触れることができないので、オーストラリアの白いきれいな砂に触ることができ、親子で良い経験ができました。  
・わが子は賑やかな環境が苦手なので、学校で落ち着いて取り組むことができ負担が少なかったと思います。



活動の様子



お礼状が届きました

●先生の感想

・講師の方と密に打合せをしたので、児童生徒の実態に即した内容になって良かった。  
・安全面に配慮されていて良かった。

土佐中・高等学校中学2年生、土佐中・高等学校 登山部の事例

石川直樹氏(写真家:2018年4月~6月高知県立美術館にて写真展開催)による講演会



●先生の感想

・先日は講演会を企画していただきましてありがとうございました。生徒たちにとっても、刺激的で今後の人生での学びのヒントをもらえた内容だったと思います。

●児童・生徒の感想

・K2という山の写真を見たとき、空の青さに心を奪われた。石川直樹さんの撮った写真は、石川さん自身を表していると感じた。この1枚の写真には見えない努力があるのだと感じた。いつも言われたことをするばかりでなく、自分で考えて行動できるようになりたい。それは最終的に将来の夢に繋がると思う。  
・登山部の講演で最後に石川さんが「登山というのは体力だけでなく知力や心の強さも必要なことだから、登山はこれからの人生で役に立つよ」と言ってくれてとてもうれしかったです。この言葉を励みにこれからも登山部を引き続き頑張っていこうと思います。  
・わたしが今回の講演を聞いて一番感じたことは、挑戦することの大切さと、自分で確かめることの大切さです。また自分が行ってみたいと思った国を本やインターネットで調べるだけでなく、現地に行ってみると確かめるということもやってみようと思いました。自分

で確かめることは今の生活でも生かせることだと感じました。

安田町立安田小学校4年生の事例

目標 絵の具を使った表現と鑑賞活動(「にじんで たらして 私の世界」)		
進行	内容	
導入 (約10分)	○自己紹介○美術館の施設、概要の説明(いろいろな部屋と2大コレクション作家について)	
展開 (約30分)	○色々な表現の作品があるよ ○来館時に鑑賞する作品画像を用いて、水彩絵の具の表現について実験してみよう	
まとめ (約5分)	自分でやってみて、見えてきたものや想像したこと、どう感じたかなど、自分の言葉で発表をする	

●先生の感想

・子どもたちは絵の具学習がとても楽しくて、(別日に行った)居残り学習をラッキーとつぶやいていました。

●児童・生徒の感想

・わたしは今日、高知から来た美術の先生と、絵の具に水をいつもより多くつけてにじませて絵を描く勉強をしました。難しいのかなと思っていたら、とても楽しくなって、友達もフーフーとふいていました。私は間違いの中にも絵のいいところがあるんだと思いました。私の経験で夏休みのポスターの色をぬっているとき、水が多くなって、おかしかったと思っていたけど今日のこの体験で新しい美術を知りました。私の作品は、あつかくてやさしいイメージとちょっと悪い心の集まった球の色をぬると、パッと題名が浮かびました。「美しい心には黒も」という題名が浮かんできました。私はこの体験ができてよかったです。



ピンホールカメラの体験、撮影する場所選びと現像作業体験(城西中学校)



サンドアートに挑戦(高知県立高知若草養護学校土佐希望の家分校)



企画展「王様の美術館」と不思議な絵を鑑賞して(神田小学校放課後児童クラブ)



にじんで たらして 私の世界(安田小学校)

●成果・課題

問合わせ件数は少なかったが、次につながる実績が3つあったと感じている。1つ目は、アーティストが講師となって学校を訪問する機会に恵まれたことである。企画展会期中に来高していた石川直樹氏本人の希望もあり、土佐中学校・高等学校にご協力をいただくことで講演が実現した。アーティストの話は、子どもたちにとって美術の分野だけではなく人としての生き方や考え方を聞くことができる貴重な体験になった。高知若草養護学校土佐希望の家分校では、依頼から事前の打合わせと本番まで、講師の松木由子氏と教職員全員が行事への協力体制を整え授業を作り上げることができた。2つ目は、夏休み期間中の放課後児童クラブへの出前授業である。鑑賞後には鑑賞内容と関連した制作活動(事前に打ち合わせをして先生方が準備)を行った。3つ目は、城西中学校で実施した、ピンホールカメラの体験授業である。石元泰博フォトセンター担当学芸員と協力して準備を行い、カメラの仕組みについて体験ができるプログラムを試行した。現在では特殊な表現技法となったネガ・ポジ法を応用したネガ制作である。理科の分野と関連する部分もあり、今後の利用にも対応できるように研究をしていきたい。

他の事例では引き続き来館してくれている学校があり、一宮中学校1年生の前日の出前授業と来館が毎年の恒例となってきた。開催中の展覧会の出品作家について事前に知ってもらい、来館における作品鑑賞の準備として有効に活用してもらっている。同じく、子ども県展今回は企画展「ニュー・ペインティングの時代」の来館事前学習も含めた安田小学校の出前授業は、絵の具の性質を生かしたモダンテクニックを「実験」と銘打って取り組み、そこから見えてきた色や形について、子どもたちそれぞれが想像力を働かせ、自分なりのイメージと考えを持って体験を通した鑑賞活動ができていた。昨年度課題にしていた、パソコンの画像データではなく、もっと鑑賞しやすいツールや、アーティストによるアウトリーチプログラム等、体感や体験を重視した内容を探ってきたいという件について、今年度の事例を基に学校との連携と協力をしながら、よりよい方法を模索していきたい。

## 2 出前クラシック教室

県内の子どもたちに気軽にクラシック音楽に親しんでもらうため、また、県内のアーティストの育成を行うとともに、地域の小中学生等との音楽交流を進めた。



### ●事業内容

県内を中心に活躍する音楽家が本事業のために結成した「アンサンブル・パレット」(福田香苗/サクソフォーン、中山園/トランペット、川村陽華/ヴァイオリン、杉本成美/ピアノ、岡林綾/フルート)が、小中学校などの教室で行う演奏会。アニメーション「となりのトトロ」を中心に、楽器の仕組みや曲紹介、子どもたちによる朗読を交えて、音楽を通じたコミュニケーションを楽しみながら行った。

### ◎利用校

高知県立日高養護学校全学年、高知県立高知若草養護学校子鹿分校全学年、高知小学校1・2年生、須崎市立安和小学校全学年、高知市立高知特別支援学校全学年、田野町立田野小学校1・2年生、5・6年生(計:6校)

### ●児童・生徒の感想

- ・感情をどうやってピアノで表すかを知りたくて、わかったことは、体や首を動かしながらリズムにのってひいていたことです。それを見てほくは、「あ、楽しいんだな。」と感じました。
- ・演奏をきいて嫌なことも全部忘れて、心がすっきりして、楽しい気持ちになりました。
- ・クラシックを目の前で聞けるなんて感動でした。

### ●成果・課題

養護学校をはじめ、学校側からの依頼で、ほぼ日程が決まった。継続年数も10年を越え、ようやく認知されはじめてきたのか。学校から依頼がある場合は、担当の先生が熱心なことが多く、とても歓迎していただいた。

田野小学校は、演劇が先に決まっており、下見の際にクラシックにも適している環境であったため唯一、こちらから声かけをした。学校の雰囲気もとても良く、先生からは、また何かあったらお声をかけてくださいと言われた。

課題としては、やはり年々、リサイクル等で忙しくなっていくメンバーの日程調整である。たまたま、シーズン(2月~3月)以外の依頼が多く、回数は例年通り実施することはできた。



体育館で行われた創立50周年記念式典での演奏



息もぴったり



元気いっぱいの子どもたち

## 3 出前演劇教室

子どもたちに、体の動きの大切さに気づかせるとともにコミュニケーション能力の向上を図るため、出前演劇教室を県内の小学校で行った。



### ●事業内容

カンパニーデラシネラの小野寺修二、藤田桃子によるマイムを取り入れた、体を動かすワークショップを実施した。

### ◎利用校

田野町立田野小学校3・4年生、本山町立本山小学校3・4年生、土佐町立土佐町小学校4年生(計:3校)

### ●児童・生徒の感想

- ・パントが全部でマイムがまねというのが初めて知りました。
- ・最初は、はずかしくて上手くできなかつたけれど、みんながやっているのを見て、最初よりは上手くできたと思います。
- ・体育館へ入った時、1ミリも動いていない人がいてびっくりしました。
- ・相手に触ると入れ替わるのが楽しかったです。この動きを休み時間に友達とやりたいです。

### ●成果・課題

子どもたちは、始まるとすぐに二人の動きに集中し、たくさんのプログラムを次々こなしていた。前回の課題であった、感想文を今回は実施し、その中にも子どもたちそれぞれ、ヒットするものが違い、様々な感想が書かれていた。そして、また来てほしいという声が多かった。子どもたちは地域の方以外に人と関わる機会が少ないようなので、今回の出前授業が貴重な体験になり刺激になったようだ。忙しいお二人だけ、高知に滞在し、子どもたちと触れ合う時間を大切に思ってくれており、とても嬉しく思う。アーティストからも、出前演劇教室を行う事で毎回発見があるという事から、子どもとアーティストが共感しあって、この演劇教室では、より深い感動が生まれているように感じられる。



ピタッと動かずお出迎え



講師も驚く独創的な動き



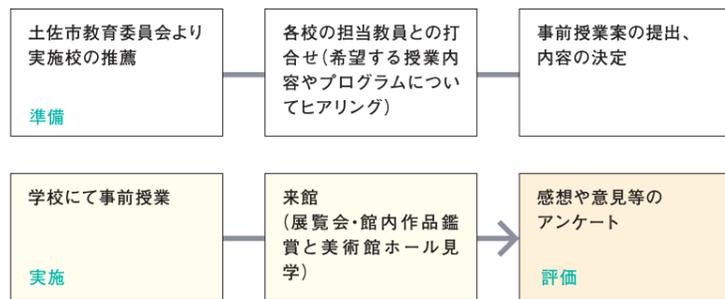
タイミングを合わせて、みんなでジャンプ

石元泰博コレクションの活用

土佐市スクール・プログラム4年目の取り組み

郷土ゆかりの写真家である石元泰博氏のコレクションを紹介し、作家や作品に親しみを感じてもらおうプログラムとして、石元氏が3歳から18歳までを過ごした土佐市を重点地域と定め、平成26年度より実施してきた。平成27年度より、プログラムの対象を土佐市内の全小学校と定め、事前授業と来館を組み合わせたプログラムとして内容を整えた。翌平成28年には土佐市教育委員会と高知県立美術館とで連携事業に関する協定を締結し本事業の共同を強め、連携を深めてきた。今年度の実施校は、初年度から引き続き、石元氏の母校である高岡第二小学校3学年8名と、教育委員会からの推薦校である波介小学校3、4年生21名(3年生7名、4学年14名)を対象とした。

実施までの流れ



スライドを使った美術館の説明と、石元作品の鑑賞



「フェルメールのカメラ」の組立作業



完成した「フェルメールのカメラ」のピントを合わせて画像を見る



カメラを使っての撮影風景

●高知県立美術館と石元泰博コレクション当館で開催した「石元泰博写真展 1946—2001」展(2001年)を機縁に、高知県は石元氏の生前から逝去した後にかけて、ご本人とご遺族から段階的に作品等の寄贈を受けた。そのコレクションの概要は、プリント34,753枚、ネガフィルム約100,000枚、ポジフィルム約50,000枚、さらに書籍・写真集、カメラ機材や、交流のあった他作家作品等を含み、公立美術館の有する個人コレクションとしては類を見ない質と量を誇る。また、高知県は石元氏より写真作品及び写真フィルムの著作権譲渡も受けている。

●石元泰博フォトセンターについて石元泰博コレクションを、適切な環境で保存・管理し、継続的な調査・研究を行い、国内外多くの人々が利用できるアーカイブとして、その価値を一層高めるため、2013年に高知県立美術館内に開設。コレクションを管理し研究する「深める」活動、展覧会開催やデータベースサービスなどを通じて「広める」活動と並び、石元氏の人間性や芸術に親しんでもらうための「つなぐ」活動として、本スクール・プログラムの実施等、コレクションの活用と普及に努めている。



石元泰博(1921-2012)についてアメリカ・サンフランシスコ生まれ。3歳のとき両親の故郷・高知県高岡町(現・土佐市)へ戻る。1928年瀬・鴨川尋常小学校(現・高岡第二小学校)入学。高知県立高知農業学校(現・高知県立高知農業高等学校)を卒業した1939年、単身渡米するが、間もなく第二次世界大戦がはじまり、収容所生活を余儀なくされる。終戦後、シカゴのインスティテュート・オブ・デザイン(通称、ニュー・バウハウス)にて写真技法のみならず、石元作品の根幹を成す造形感覚の訓練を積む。その後、桂離宮に内在するモダニズムを写真により見出した作品で高い評価を受ける。文化功労者。高知県文化賞受賞。



石元泰博「セルフ・ポートレート」1975年 ©高知県、石元泰博フォトセンター

事前授業

土佐市立高岡第二小学校

石元氏の母校として、「石元泰博ルーム」が作られており、平成26年度より継続してプログラムを行っている。授業は石元氏の作品をスライド画像などと一緒で紹介し、来館時のポイントを交えながら進化した。また、写真の仕組みを知るためにカメラオブスクラ(今回は「フェルメールのカメラ」を使用)を作成し、実際に見ている風景とカメラに映し出される風景との違いについて勉強した。授業後半では、石元氏所有の同型のカメラを使い、児童たちがカメラマンとなり、同級生のポートレートを撮影した。フィルムで撮影をすることが初めてだった児童たちは写真を一枚撮影するのにいろいろな手順を踏まないと撮影できないことを体験した。

●内容

10月29日[月]3年生8人、13:50~15:25、45分授業2コマ

授業内容

目標	●高知県立美術館について(施設の内容、働く人、催し)、石元泰博コレクションを知る ●カメラの原理を、工作体験を通して知り、楽しむことができる ●石元氏と同じカメラを使って、自分が選んだものを工夫して撮影ができる ●来館時の注意点を学ぶ	
導入 13:50~14:05(15分)	●自己紹介、今日の授業の説明 ●高知県立美術館の紹介(館内の様子、展示室写真、館内展示作品の紹介) ●石元氏と写真コレクションを紹介	●美術館外観、展示室の特徴、作品の大きさや素材について、スライドを交えながらイメージが膨らむように説明する
展開① 14:05~14:25(20分)	●「フェルメールのカメラ」の組立作業をする	
展開② 14:25~14:35(10分)	●カメラの原理を体験する(使い方)	●ピントを合わせていろいろな画像を写し込み、モノが写る体験をする
導入 14:40~14:45(5分)	●石元氏が使用したものと同じカメラで撮影体験することを伝える ●フィルムについて説明する	●完成は「白黒写真」になることを説明し、完成時の楽しみなど想像をさせてみる ●前の時間の授業を生かし、カメラの仕組みとフィルムの役割を説明する
展開① 14:45~14:50(5分)	●ピントの合わせ方、撮影する場所や明るさによってシャッターのスピードを変えることが必要であることを体験する	●1枚撮影することに時間がかかることや、1枚に集中することが分かるように体験させる
展開② 14:50~15:10(20分)	●実際に撮影してみる(4人1組)2台のカメラに分かれる①友達(三脚の使用)②自分の撮影したいもの③風景	
振り返り 15:10~15:15(5分)	●個人で考えたこと分かったことを発表し、体験を共有する	●作者にも興味を持たせる。●今回撮影した体験を通して作品を見ることで、作者の思いを想像したり、作品に込めた気持ちを考えさせる。また、作品鑑賞の時に観る時のポイントにつなげる
まとめ 15:15~15:25(10分)	●来館時の注意点を伝える	
評価	●高知県立美術館がどんな場所かイメージができる、石元氏について説明でき、写真が写される仕組みについて理解する	

テーマ:郷土ゆかりの写真家・石元泰博とカメラの原理、撮影体験をする。高知県立美術館について学び、石元氏とコレクションを知り写真作品の鑑賞ポイントをつかむ。カメラの原理を、工作体験を通して知り、楽しみ、石元氏と同じカメラを使って、自分が選んだものを工夫して撮影をする。

●先生の感想

カメラ作りでは全員が楽しみながら取り組むことができ、カメラの仕組みも考えることができました。写真の撮影体験では、1枚の写真を写す事の大変さを子どもたちが知ることができ、大変勉強になりました。



カメラを使っての撮影風景

事前授業

土佐市立  
波介小学校

高知県立美術館とコレクションの概要  
ついて説明を行い、美術館で行われる  
展覧会、コレクション展、石元氏の作品

などについて話した。そして石元氏の写真がどのように撮影されているのかを理解するため、石元氏と同型のカメラを使用してクラスメイトのポートレートの撮影を行った。今回使用したカメラは携帯電話やスマートフォンで撮影するようには撮影ができないので、一回の撮影に掛かる時間と労力を体験した。最後に来館時の鑑賞マナーについて、なぜそのマナーが必要なのかを考えてもらいながら説明し、児童と対話しながら内容を深めた。

●内容

1月24日[木]3年生7人、4年生14人、10:40~11:25、  
45分授業1コマ

テーマ：郷土ゆかりの写真家・石元泰博とカメラの原理と撮影体験をする。高知県立美術館について学び、石元氏とコレクションを知り写真作品の鑑賞ポイントをつかむ。石元氏と同じカメラを使って、ポートレートを撮影する。

●先生の感想

当日の活動や館内での約束事など分かりやすい説明があり良かった。石元泰博さんの気持ちを少しでも理解できるようにライカのカメラのファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターを押し撮影できたことは、児童の興味を喚起して、当日への期待も高まった。

授業内容

目標	●高知県立美術館について(施設の内容、働く人、催し)、石元泰博コレクションを知る ●石元氏と同じカメラを使って、自分が選んだものを工夫して撮影ができる ●来館時の注意点を学ぶ	
導入 10:40~10:55(15分) 11:30~11:45	●自己紹介 ●石元氏の生立ちと作品を画像を投影しながら紹介する ●今日の学習の目標を確認する(クラスメイトのポートレートを撮影する)	●石元氏のポートレートや作品などを見て、石元氏について理解する ●授業の内容をいつでも確認できるようにする
展開① 10:55~11:00(5分) 11:45~11:50	●カメラの仕組みと使い方を説明する	●カメラの各部名称や構え方、ピントの合わせ方などを理解する
展開② 11:00~11:20(20分) 11:50~12:10	●友だちのポートレートを撮影してみる ※撮影とモデル役を一人ずつ交代しながら行います 名簿順など順番を決める必要があります	●説明を思い出して慎重に撮影を行う ●正しい構え方ができているか ●被写体(友だち)にピントが合っているか ●シャッターボタンを正しく押せるか
まとめ 11:20~11:25(5分) 12:10~12:15	●美術館来館時のマナーなどについて話し合う	
評価	●高知県立美術館がどんな場所かイメージができる、石元氏について説明でき、 写真が写される仕組みについて理解する	



スライドを使った美術館の説明と、石元作品の鑑賞(4年生)



ポートレートの撮影風景(4年生)



ポートレートの撮影風景(3年生)

11月6日[火]  
高岡第二小学校  
3年生8人

児童8名引率教員2名の合計10名の来館だったので、通常行っている班分けを行わず、学芸員3名で全員を引率し、石元泰博展示室とシャガール展示室を中心に巡った。各展示室で概要を説明した後、回廊、情報コーナー前でインスタントカメラでの撮影時間を設けた。出前授業で紹介した石元作品を実際に見て受けた印象について、児童からいろいろな発言が出た。又、能楽堂や防災センターなど、展示室以外の施設や、バックヤードの見学を行った。

●スケジュール

- 9:30 美術館到着、創作室へ移動。
- 9:40 はじめの挨拶(ご挨拶、紹介、美術館内でのマナーを確認)。
- 9:45 石元泰博展示室、回廊、情報コーナー前にてインスタントカメラで撮影。
- 10:10 シャガール展示室、休憩を挟んで企画展「芳年」、「土陽美術会」を鑑賞。
- 10:35 オペレーションルーム、大エレベーター、搬入口、防災センターを見学。
- 10:45 能楽堂・ホールバックヤードなどの見学。
- 10:50 まとめ(トイレ休憩)。
- 11:00 美術館発。

●先生の感想

事前学習があったので1枚1枚の写真に込められた思いを感じ取りながら鑑賞できていたと思います。シャガールや浮世絵も1つ1つ見て、感じ取る様子がありました。

石元さんについて本当にたくさんの事を知ることができ、子ども達は写真についても見方が変化したように思います。色々な体験をさせていただき、ありがとうございました。



出前授業で行った美術館内でのマナーの確認



石元泰博展示室内の風景



インスタントカメラでの撮影と写真



平成31年2月5日[火]  
波介小学校  
3年生7人、4年生14人

2グループに分かれて各グループを学芸員が引率し、時間をずらしながら石元泰博展示室やシャガール展示室など館内を巡った。当日は第4展示室でも石元作品の展示をしており、普段よりも多くの作品を見ることができた。また、搬入口や防災センターなどのバックヤード見学を行い、美術館自体の見学時間を設けた。

●スケジュール

- 13:10 美術館到着、トイレ休憩、はじめの挨拶(自己紹介、来館時のマナーを確認)。
- 13:35 2グループに分かれ、石元泰博写真展、石元泰博展示室、シャガール展示室、企画展「ニュー・ペインティングの時代」、バックヤードを鑑賞。
- 14:40 集合、トイレ休憩後、出前びじゅつ講座の際に撮影したプリントとネガを配る。
- 14:50 まとめ。
- 15:00 美術館発。

●先生の感想

学芸員の方が2グループに分かれて、丁寧に説明をして下さったので、バックヤードも含め見学できたことは、とてもよい経験になったと思う。日頃行くことのない児童にとって実際に出かけて、ゆっくり体験できたことは貴重な経験になった。当日に展示されていた石元さんの作品も近づいてじっくり見る子どもも多くいた。他の作品にも興味をもって鑑賞していた。好きな作品をみんなみつけたようであった。

●成果・課題

今年度で5年目の実施となった。今年度は石元泰博を知ってもらえるように新しいプログラムを取り入れ、実施することができた。新しいプログラムとこれまでの経験をバランスよく実施できてきたように思う。実施校については滞りなく決定できるようになったが、その後の学校の調整とプログラムの選定に時間が掛かった。今後も、美術館や石元泰博作品をはじめとする美術館コレクションに親しめるようなプログラムを、学校と協働して実施していきたい。



石元泰博展示室を鑑賞



映写室の見学

教職員対象プログラム

市町村の教育研究会が主催する教職員対象の研修会で、当館のコレクションや鑑賞についてのレクチャーを担当職員が行った。土佐市教育研究会と安芸市教育研究会の図工・美術部会では、担当学芸員と職員が出向き、美術館の紹介や役割について述べ、鑑賞授業を他教科に繋げることができる簡単な模擬授業を行った。また、中芸地区教育研究会図工・美術部会では、図画工作の指導書付録のアートカードを使った鑑賞ゲームを通して、鑑賞について児童生徒と同様の体験学習をしていただいた。



作品から想像してみよう



自分の言葉で



意見を共有しよう



新しい見方の発見!

ティーチャーズ・デイ

当館主催の企画展会期中、小中学校、高等学校、特別支援学校等に勤務する職員を無料で招待する「ティーチャーズ・デイ」を行った。(企画展開催中の指定日曜日13:45会場前集合、14:00スタート)

参加者数

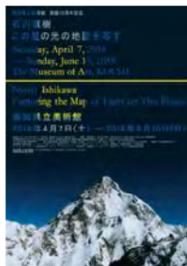
展覧会名	利用人数	参加人数
石川直樹 この星の光の地図を写す	4月22日(日)	3人
王様の美術館 フランス近代美術とシュルレアリスムの精華	8月5日(日)	4人
芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師	11月18日(日)	3人
ニュー・ペインティングの時代	2月24日(日)	0人

参加者の感想

- 学芸員の声聞き取りやすく、解説内容も丁寧に分かりやすかった。新しい知識が得られたのでよい。
- 今回打合せに来館して、このような特別な日があることを知りました。日曜日は良いと思います。時間も良いです。作品についての解説があると作者の想いが伝わり良かった。
- ギャラリートークはもっと他では知りえない裏話やエピソードを聞いたら面白いと思います。中高生の興味を惹きつけるには学芸員の話し方がとても重要になると思います。
- 無料招待とギャラリートーク参加はありがたいです。もっと教員もこの日を目指して参加できればいいのですね。(先生の参加、少ないのですね)私も知人に誘われなければ今日は来てなかったです。

成果・課題

当日来館して参加していただくケースもあったので、気兼ねなく参加できるように呼び掛けを継続していきたい。スクール・プログラムの打合せや、出前授業先から初参加された方がいたのは収穫であった。今後の課題として、まずはティーチャーズ・デイの日程調整である。学校行事日程の細かいリサーチが必要で各学校との連携が必要である。そして参加してみたいような告知の工夫、分かりやすいギャラリートークの内容、美術教員以外の参加者(保育園や小学校、特別支援学校職員)への呼び掛けの強化と増員が課題である。



平成30年度スクール・プログラム事業実績

来館利用

実施日	学校・学年	来館者(内訳)			
		児童・生徒数	引率(教員)	利用数	
4月26日	高知市立一宮中学校1年生	92	8	100	
5月3日	土佐塾中学・高等学校 美術部	13	1	14	
5月11日	高知市立青柳中学校 1年生	83	7	90	
5月11日	高知高等学院	40	4	44	
5月21日	高知市立青柳中学校 のぞみ学級	2	1	3	
5月23日	土佐塾高等学校1年生	23	1	24	
5月24日	土佐塾高等学校1年生	26	1	27	
5月25日	土佐塾高等学校1年生	11	1	12	
7月6日	いの町立伊野南中学校 1~3年生	68	15	83	
8月20日	高知県高等学校文化連盟美術・工芸専門部高校1~3年生	40	17	57	
9月7日	土佐塾高等学校1年生	11	1	12	
9月12日	土佐塾高等学校1年生	24	1	25	
9月13日	高知市教育研究所教育支援センター	14	11	25	
9月13日	土佐塾高等学校1年生	27	1	28	
9月21日	高知市立義務教育学校行川学園 1~9年生	51	23	74	
9月27日	須崎市立浦ノ内中学校 1~3年生	23	12	35	
10月19日	高知県立高知若草養護学校 国立高知病院分校高等部2年	2	4	6	
10月23日	高知市立旭小学校4年生	54	2	56	
10月30日	いの町立伊野中学校 1年生	88	9	97	
11月6日	土佐市立高岡第二小学校 3年生	8	2	10	
11月9日	土佐市立高石小学校 4年生	14	3	17	
2月5日	土佐市立波介小学校 3、4年生	18	3	21	
2月14日	高知県立高知若草養護学校 中等部3年	3	3	6	
2月22日	清和女子高等学校	16	4	20	
2月26日	学校法人高知学園 高知小学校3年生	42	2	44	
2月26日	仁淀川町立池川小学校 6年生	10	2	12	
2月27日	四万十町立米奥小学校 全校生徒	15	5	20	
2月28日	馬路村立馬路小学校 全校生徒23人	9	4	13	
3月1日	四万十町立川口小学校 全校生徒	30	6	36	
3月1日	安田町立安田小学校 3・4年生	22	2	24	
		合計	879	156	1,035

- ミュージアムバス・ツアー
- 石元泰博コレクション活用

保育・幼稚園来館

実施日	保育園名	児童・生徒数	引率	合計	
1月21日	土佐市立北原、天理あかつき保育園	22	3	25	
1月23日	土佐市立愛聖保育園	20	3	23	
1月25日	高知大学教育学部附属幼稚園	45	4	49	
1月28日	土佐市立こぼと、山の手保育園	20	4	24	
1月30日	土佐市立宇佐、みのり保育園	14	3	17	
1月31日	土佐市立すみれ、高石保育園	24	4	28	
2月4日	土佐市立わかば保育園	18	2	20	
2月5日	土佐市立蓮池保育園	27	3	30	
		合計	190	26	216

出前びじゅつ講座

実施日	学校名	利用数	
4月25日	高知市立一宮中学校 1年生	92	
5月25日	土佐中学校・高等学校(中学2年生256人・登山部17人)	273	
5月29日	高知県立高知若草養護学校 土佐希望の家分校	21	
7月31日	高知市立神田小学校 第3放課後児童クラブ	28	
8月16日	高知市立神田小学校 第1放課後児童クラブ	27	
11月8日	高知市立一宮中学校 校内ハローワーク 2年生	12	
11月21日	安芸郡安田町立安田小学校 4年生	13	
3月18・19日	高知市立城西中学校2年生	99	
		合計	565

出前クラシック教室

実施日	学校名	参加数	
10月27日	高知県立日高養護学校	100	
12月3日	高知県立高知若草養護学校 子鹿分校	32	
2月7日	高知小学校 1年生A	28	
2月7日	高知小学校 1年生B	28	
2月14日	高知小学校 2年生A	29	
2月14日	高知小学校 2年生B	29	
2月25日	須崎市立安和小学校	34	
2月26日	高知市立高知特別支援学校	70	
3月5日	田野町立田野小学校 5・6年生	30	
3月5日	田野町立田野小学校 1・2年生	37	
		合計	417

出前演劇教室

実施日	学校名	参加数	
2月21日	田野町立田野小学校	27	
2月22日	本山町立本山小学校	26	
2月22日	土佐町立土佐町小学校	31	
		合計	84

教職員の研修

実施日	学校名	利用数	
6月13日	土佐市教育研究会図工・美術部会	9	
8月1日	安芸市教育研究会図工・美術部会	15	
11月21日	中芸地区教育研究会図工・美術部会	7	
		合計	31

平成30年度 高知県立美術館 スクール・プログラム報告書

編集 : 高知県立美術館 学芸課 高橋まどか、長山美緒、天野圭吾、企画事業課 山脇有美

デザイン : 有限会社ナノ・クリエイティブ

発行 : 高知県立美術館 〒781-8123 高知市高須353-2

発行日 : 平成31(2019)年4月16日